



2021. 8月第633号

発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

紀元前701年に、エルサレムは、アッシリアのセナケリブ王の軍隊に包囲される。バビロン捕囚の100年以上前、ヒゼキヤ王の時代に、預言者イザヤのいた時代に、エルサレムの都は最大の危機を迎えるのだ。アッシリア王によって派遣された策士ラブシャケは、エルサレムの城壁の外から大声で叫ぶ。「ヒゼキヤにだまされるな。彼はお前たちをわたしの手から救い出すことはできない。ヒゼキヤはお前たちに主が必ず我々を救い出してください。決してこの都がアッシリアの王の手に渡されることはない、と言って、主に依り頼ませようとするが、そうさせてはならない。」(18:29-30)と。

しかし、このことを聞いた預言者イザヤは、ヒゼキヤ王に告げる。「主なる神はこう言われる。あなたは、アッシリアの王の従者たちが私を冒瀆する言葉を聞いても、恐れてはならない。」(19:5)と。王は、神殿の前に進み、主なる神の前で「主よ、耳を傾け聞いてください。主よ、目を開いて

瞑想

主よ、耳を傾けて聞いてください。  
主よ、目を開いてご覧ください。

するものだ」、「なんといいても、この世の力には逆らえない」。そんな言葉が、私たちの心をよぎり、私たちの心の内は、エルサレムの民のように動揺する。かつてアシュラム運動の創設者、スタンレー・ジョーンズ博士は、ソビエトでの伝道旅行の経験について次のように書いている。列車の中で同席したロシアの女優に「あなたが宗教を信じているのはあなたが弱いからです。あなたは神に手を握ってもらい、慰めてもらいたいのでしょ。」と言われ、博士は、そうではなく「神が私の手を握ってください。私を助けてあげることができるようにと願って

主幹牧師 榎本 恵

王下19:16

ます。」と答えた。すると彼女は「あなたは理想主義者と思いますが、私は現実主義者なのよ。」と言って下車していったのだという(震われない御国と変わらない人格より)。彼女にとっては、キリスト教など理想主義者の戯言にすぎず、自分たちが確かな存在なのだと言いたかったのだ。「なぜ、そんな頼りにならぬものを頼りにするのか」、「あなたは現実を知らない、理想主義者に過ぎない」。そんなキリスト者にとつて、聞きたくない言葉、聞かせたくない言葉が、今この世には溢れかえっている。しかし、その聞きたくない、聞かせたくない言葉を、主は耳を傾け聞き、目を開いてご覧になるのだ。

友よ、私たちのすぐそばで叫ぶ、ラブシャケの声が聞こえる。神を冒瀆する言葉が聞こえてくる。しかし、それでも、主はそれを聞き、見ておられるのだ。恐れることはない。イザヤの言葉が必ず響いてくる。

## 池谷治朗兄を訪ねて ①

6月27日 恵師・康子・鈴木兄(静岡聖書教室の友)がお世話下さる

証し

(癌の痛みの中で、  
主と家族、祈りの友の

愛に感謝)

イエス様は、人間だから十字架のその痛み苦しきはわかっていたかもしれない。すごい壮絶な痛みだということが予言ではきつとわかってるんですよ。十字架につけられたことは本当に苦しみであつたとよくわかるんですよ。だから「我が父よ、私をお見捨てになつたのですか。」と本当に言いたくなる気持ちもすごいわかる気がする。わかつていながら痛みというのは壮絶ですよ。

てる子さんもそうだったかもしれない。保郎先生も飛行機の中で吐血をされて大変な

思いをしてもそれでもその主について行かれた、それが証しになつて私に今生きていますですよ。勇気をもらつてどんなに辛くても大変でも、主は必ず見捨てない。本当にそれをすごく思う。痛むときは叫ぶんですよ。苦しいよ。痛いですよ。でも何もしてくれないんだけどね(笑)。でも主がいてくれることは勇気ももらえて、またみんなが祈ってくれることが私にはすごく大事で、安心できる。だから本当に主の十字架は素晴らし

い。私たちは死んでも生きる



光輝き、生き生きと、  
堰を切ったように語られた池谷兄。

という望みが与えられているから、ただ帰るだけなんです。死というものが怖かったけど、今は死が怖くなくて、元に戻るだけなんです。私たちは、元居たところに戻って、ここではいろんな学びがあったり、いろんなことを訓練させられて、そこに帰るだけ。だからきつとみんなに会えるから、死んでも生きてるから、保郎先生だって生きてるしそれを繋いでいるアシラムセンターに

すごい働きがあると私は思う。本当にここで聖書教室をやりたいたいという思いがある。聖書のみことばに触れて、いつも神が語ってくれているのは、「恐るな、私があるのを贖ったのだ」という文句しかないです。だから恐れなくて済む。すごい主の平安があるなっていうことに私を感じて、それはやはり保郎先生が私の元になつていて、どんなに大変な時でも主を仰ぎ見て、吐血して苦しんでる中でも、途中で降りようとしてもアメリカまで行くって、あの時は壮絶で死にそうな思いをしたと思うんだけど、それでもアメリカに到達すればなんとかなるんじゃないかという思いできつといたんだらうなど。

私の中にはそのことが生きています。だから保郎先生が残してくれたものが今私の励みなんです。そこにアシラムセンターがあつて、恵先生たちが来てくれる。本当に私の中ではもう十分なんです。すごい働きなんです。主の愛っていうのはものすごく偉大で、人が何かするんではなくて、させてくださるものを受け止める。きつと恵先生も今日は神様から受け取つて、(治朗の所に)来なさいと言われたことを実行しているんです。

神様から受けている指令、メッセージ、それを受け取つて実行していく、それが大事だよと絶えず神様は言ってくださっているんですよ。

(早天祈祷会、今は電話にて聴いて下さり、祈りを共に。)  
(美しい足の会)(8月25日)  
は池谷兄の祈りにより生まれることに！)

# 新潟一日アシシラムの開催

吉澤 昭男

6月5日(土)に新潟一日アシシラムが2年ぶりに開催されました。

昨年是一年アシシラム、一泊アシシラムが中止となりましたが、今年は3月のミニアシシラムに



続き、一日アシシラムを開催でき、感謝しております。

主題聖句は「御子は見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれたお方です。」(コロサイ1章5節)、奉仕者としてアシシラムセンターから榎本恵主幹牧師を迎えることが出来ました。今回は北陸自動車道をお出でになり、榎本光太兄も一緒でした。本来であれば、国際正義平和アシシラムの備えの時でもありました。が、コロナ禍のため、ホテルでは外国人の受け入れはできない、とのこと。2年後に延期されることになりました。ミニアシシラムの時も、アシシラムのメンバーが待ちに待ったかのように集まってくれ

ましたが、今回も予想(?)以上に皆さんが集まり、33名の集会となりました。日キ教団新潟教会が場所を提供して下さったことも感謝でした。マスク着用(写真撮影の時ははずしました)、手指消毒、検温、ソーシャルディスタンスに留意しました。

新しい方、久しぶりの方、いつも出席される方もいろいろですが、恵みを知っておられる方が、主の恵みを求めて出席されたのだと思います。

久しぶりに榎本牧師のメッセージに傾聴し、2回の静聴は、コロサイ1章と2章、パウロが獄中で書かれた栄光と恵みに満ち満ちておられる「御子の姿」を黙想しました。恵みの分かち合いは6組のファミリーに分かれ、それぞれの祈りの課題が共有されました。今

後1年間、レビの時が守られ、レビの時を通しての祈りの輪が祝福され、信仰の成長につ

ながることを期待するものです。(新潟アシシラム 事務局)

## 第45回教職アシシラムを終えて

加々美 要

イエスは主なり!

6月14、16日の教職アシシラムは、当初予定していた会場が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため使えなくなり、急遽私たちの教会で行うことになりました。私たちの教会は団地の集会所を拝借して礼拝や祈祷会を行っており、アシシラムのため3日間使用の許可をいただきました。参加者は主が選び送り出された7名でした。

村瀬俊夫先生の著書「ヘブル書講解」から引用させていただきました。

ヨハネの福音書14、17章を4回にわたり静聴しました。開心の時から静聴と恵みの時が進み、同労者の共通の課題や祈りの必要を覚えることが出来ました。

早天祈祷会では、会堂建設の証しを中心に十字架を負って主に従うことが証しされ、2回目はエリヤの生涯からバアルの預言者との対決と大勝利、その後

の逃亡劇から主の細いみ声を聴き、励まされて再び立ちあがるお話があり、参加者がだい



に恵まれ励まされたことでした。中日の奨励の時も主題にそって大祭司である主イエス・キリストが語られ信仰を深められました。

後は隣町の遠山記念館を見学する機会を与えられ楽しみました。いつもの会場にはない恵みを味わうアシユ

### オンライン大阪聖書教室に 吹いた風

（桶川聖書教会牧師・  
教職アシユラム  
実行委員長

「参加」を押し上げ、ゾームを立ち上げ、ソコンの四角い画面の中がまたいくつか仕切られて、そこから笑顔が見える。こうして顔と顔を合わせてみ

に心が近く感じられるんだらうと、アシユラムに参加するたびに思った。そして、それはオンラインでも同じだった。そこにアシユ



Zoom聖書教室、神の家族との大切なひととき。貝出姉は左上。

風が吹いてくる。教会も違うし、それぞれの背景や信仰歴もよく知らない。けれど、イエス様に呼び出され、イエス様を信じて従いたいと願っている者同士は、どうしてこんな

「主がご入用です」きょうの箇所は奇しくも、子ロバを連れてきなさい、とイエス様が言われた「ちいるば」の箇所だった。短い箇所なのに、神様は不思議なほど参加者に別々のことを示される。そしてそれを聞いていく時、扉が次々開かれるような不思議な気づきが与えられる。恵牧師が、それぞれに聖書とつないで説明してくれる。恵牧師は上から話すのではなく同じ位置に立って、受け入れて下さるので、この風の中で自由に話すことができ、気づきが深まる。

の霧が消えた。教会の仕事も家庭や職場の仕事も、「主がご入用」と言ってくださっているのだと示され喜びがあふれてきた。一人の方が「神様の会社に雇われている」と話された。「超ホワイト企業」と。与えられている仕事は神様に雇われている。なんと光栄なこと。疲れが飛んだ。解放された。オンラインでの姉妹のことは、主の語りかけとなった。わたしは主のご入用として生かされているのだ。パソコン画面の中に見える、小さな神の家族。Zoomが終了されたら画面は消える。けれど、つながりは消えない。風は吹き続けている。不安の風に飛ばされそうになる今こそ、この風が必要だったのだと、改めて気づかされた。主に感謝。

教会のことや仕事のことや家庭のことでモヤモヤしていたわたしの心

シメオン黙想の家 完成感謝メッセージ  
ヤシユラムの賛歌  
時を備えて下さった主に感謝し  
尊い名を崇めます。  
吉田隆久・すみえ（札幌）

（徳島聖書  
キリスト教会）



中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。  
直前の変更の場合あり！

8月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
3(火)	ZOOM聖書教室 (ZOOM AM10:30、PM7:30)	
14(土)	聖書と学ぶ会 (ZOOM PM8:00)	
15(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)	
16(月)	箴言に学ぶ会 (ZOOM PM10:30、PM7:30)	
18(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
25(水)	美しい足の会 (ZOOM PM10:30、PM7:30)	<b>New!!</b>

8月のアシュラムなど		
12(木)	関西青年アシュラム	0722-50-5224
14(土)	奉仕者 溝口 勝幸師	小林牧人兄
19(木)	常任運営委員のための修道場アシュラム	0748-33-4030
21(土)	奉仕者 櫻本 恵師	アシュラムセンター

9月のアシュラム予定		
16(木)	修道場アシュラム④	0748-33-4030 アシュラムセンター
18(土)	(アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 櫻本 恵師	

10月以降のアシュラム予定	
10月19(火)	第25回 埼玉1日アシュラム
10月21(木)～23(土)	加太アシュラム
10月21(木)～23(土)	修道場アシュラム⑤
10月28(木)～29(金)	日光オリーブの里アシュラム

**黒見妙子姉 (町田・ちいろば祈りの家)**

7月22日、大切な信仰の友、皆様方の祈りの中で、ご家族とも心あわせられ、安心して主のみもとに召されました。感謝いたします。これからもずっと共に！



2017常任運営委員会に泊まりがけでご出席。Wハウスでティータイム。

➡皆様、暑さにお気を付けて！  
和子母



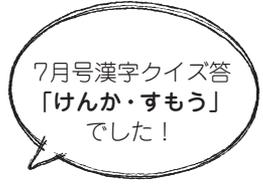
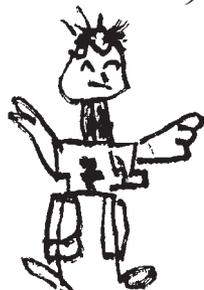
大鉢姉(カフェちいろば聖書入門講座の友)が、ご夫妻で。夕礼拝に来られた和田兄、平和兄も。



ラビリンスイよいよ最終！

みことば

ノースカロライナ大学生  
ZOOM聖書と学ぶ会  
櫻本 空



(満月を見ている筆者6才画)

この命は現れました。御父と共にあったが、私たちに現れたこの永遠の命を、私たちは見て、あなたがたに証しし、告げ知らせるのです。(ヨハネの手紙一1章2節)

毎月第二土曜の夜に開催されている聖書と学ぶ会で、私は分かち合いの時を、このみことば欄に掲載している文章を読み上げることから始めている。7月の集会でも文章を読んだのだが、そのあと対話が続いていく中で、ある方に、空さんの文章は難しい、と言われてハッとした。というのも、以前台湾にいた頃にお世話になっていた先生の言葉を思い出したからだ。曰く、神学者というのは村に住む詩人のようなもので、その人は新しい詩が書けると、それを村の皆に読んでもらう。もしそこで誰かが分からないとか、難しいとか言ったならば、詩人はその詩を捨てて、また書き直すという。そして、ようやく村の皆が、ああ、これなら分かると言ってくれるような詩ができたとき、その人は本物の詩人となるのだ。そんな言葉を思い出した時、私は自信を持って、あの文章を破り捨て、そしてまた何かを書いてみようと思った。私はいい書き手になりたいと思っている。同時に、難しいと言われてもらえるだけの信頼を、この集会がいつの間にか醸成していたことに、嬉しくなった。これこそ、神の業ではないか。ちなみに、このヨハネの言葉は、私には難しすぎた。(次号につづく)